

# 世間解

第四五五号

令和八(二〇二六)年 一月

発行 西法寺

## 念仏もうさるべし

― 未聞の益 ―



新しい年を迎えました。皆さまには決して変わることをないご本願のおはたら

きの中、「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏ご相続のことと存じます。

昨年末の除夜会(大晦日のお勤め)・修正会(元旦のお勤め)には多くの方が

ご参拝くださいました。除夜の鐘は皆さんにお撞きいただき、二六〇を超える、

それぞれの思いを込めた鐘の音が響きました。大晦日の鐘つきが無事に行えます

ことは近隣の皆さまのご理解があつてのことで、近隣の皆さまに篤くお礼申しあ

げます。誠に有り難うございます。

また、ご本堂にも百人を超える方が西法寺の

阿弥陀さまの前にお座りくださいました。ありがとうございました。

“なんあみだぶつ”というお念仏さまを称えられないという場所や時間はあり

ません。“なんあみだぶつ”というお念仏さまは、いつでも・どこでも 称え聞

かせていただくことが出来るのであります。

いつでも・どこでも とはいま・ここで ということであります。

阿弥陀さまやご往生くださった方々は、いつでも・どこでも いま・ここで

色んな事にあい、いろんな思いを持っていかねばならないこの私を願ひ続け、

支え続けてくださっておるのであります。そのおはたらきが私にお念仏となつて

くださっているのであります。

「あのね、お念仏は出来ないんじゃないやなくて、やらないだけです。いや、たとえ

声に出なくたって、なんあみだぶつ をいただくことはできるんですよ。へなか

なかお念仏できません」という人がいらっしやるけど、あれは出来ないんじゃない

くて、やらないだけだな。」

梯實圓和上が繰り返し、繰り返しお諭しくくださったお言葉であります。

「なんまんだぶ、なんまんだぶ…」とお念仏さまを称えていただくことであります。  
「いつ・どこで・なにがやってくるか分からない世界に“いのち”いただいている  
私たちだからこそ、いま・ここで・なにがやってくるでも大丈夫なものに遇わせて  
いただいておかねばならんのかな。それが阿弥陀さまのご本願であり、なん  
あみだぶつというお念仏ですよ。」

これも、梯實圓和上が繰り返し、繰り返しお諭しくくださったお言葉であります。  
お念仏さまをご相続(称えて)いただくことであります。お念仏さまとは何か、  
お念仏さまを称えるところはどういうことか…。それをお聞かせいただく場が西法寺で  
のご法座の場なのであります。どうぞ、どうぞ大晦日だけではなく毎月のご法座に  
足をお運びください。そこで、お念仏さまのお心を、温かさを一緒に聞かせ  
いただきますよう。

「そんな、難しいこと私には分かりませんわ…」  
などと全然ご心配いただくことはありません。当たり前であります。

一、「至りてかたきは石なり、至りてやはらかなるは水なり、水よく石を穿つ、  
心源もし徹しなば菩提の覺道なにごとか成ぜざらん」といへる古き詞あり。  
いかに不信なりとも、聴聞を心に入れまうさば、御慈悲にて候ふあひだ、  
信をうべきなり。ただ仏法は聴聞にきはまることなりと「云々」。

『蓮如上人御一代記聞書』というお聖教のお言葉であります。

ご法義に遇い、それをお聞かせいただき味わわせていただくというのは、ポタポ  
タと落ちる小さな水滴が、同じ所に落ちつづけていると固い石を凹ませるようなも  
のである。とおっしゃるのであります。

「未聞の益」善導大師さまの『法事讃』というお聖教でこのお言葉に遇わせて  
いただきました。「未聞」とは「今まで聞いたことがない…」ということでありま  
す。へーこんな今まで聞いたことなかったなあというお育てはお聞かせいただく  
ことによって恵まれるのであります。聞き続けさせていただいてこそ、「ああ、そ  
うだったなあ」と私の日暮らしに「ご法義が生きてくださるのであります。

ご自分の経験や価値観で「私にはまだ関係ない」などとご判断いただかないこ  
とであります。「未聞の益」のことはまた来月に…。